

動物の殺処分をゼロに近づけるために私たちができること

3年4組34番 森岡暖彩

3年5組32番 槇尾羽夏

Keyword : 「殺処分」「譲渡会」「ボランティア」

1. はじめに

私たちが探究しようと思ったきっかけは、2つある。まず1つ目は2人とも犬を飼っていて、売れ残った犬はどこに行っているのだろうと疑問に思ったことだ。2つ目はSNSを見ていて、殺処分されてしまう犬が出てきたので、殺処分の問題について深く学びたいと思ったからだ。

2. 序論

・目的

日本では、ペットショップで売れ残った犬や猫は、引取り屋や動物保護団体によって引き取られることが一般的である。対照的に、イギリスやドイツ、スイスなどヨーロッパの国々やアメリカでは、動物保護のための厳格な法律により、ペットショップでの動物販売は行われていない。

そこで本研究ではボランティアの負担を軽減し、意欲を減らさない活動方法を提案する。日本における動物殺処分は、1896年から行われており、昭和49年には殺処分率が99.7%にも達していたが、年々減少傾向にある。平成には42.9%まで下がり、犬猫の返還・譲渡率は68.4%から75.7%に上昇した。これらの数字を踏まえ、ペットショップでの購入以外の代替手段を広めることで、殺処分を減少させることが可能だと考えた。具体的には、シェルターやブリーダー、友人や知人からペットを譲り受ける方法の普及を目指す。

3. 本論

・結果

a ボランティアに参加して

2022年10月10日と12月3日、および、2023年2月18日、3月11日、5月28日、6月10日に奈良県大和郡山市にある保護団体を訪問し、ボランティア活動に参加した。このボランティアでは、次のような活動を行った。

1. 犬の散歩
2. 全ての動物のケージの掃除
3. エサやり
4. 犬のトイレを帰る
5. 猫のお世話

ボランティアの際に、譲渡会や保護団体の方に話を聞いたところ、すぐに殺処分や不幸な動物の数を減らすことは難しく、ペットを飼う人の覚悟や考えを変えないと殺処分の現状は変わらないという話をうかがった。ワールドラブハートさんのボランティアでの活動内容は主に、犬の散歩、小動物のケージの掃除、餌やり猫の



お世話などで、ここには多頭飼育崩壊などから引き取られた犬や、警察から連れてこられた動物が沢山引き取られている。

引き取りで、入れ替わりの早い犬もいれば、なかなか家族が見つからない犬もたくさんいる。小型犬は比較的すぐに引き取り先が見つかるけれど、大型犬は、躰されていない犬を飼育するのは難しいなどの理由で、引き取り先がなかなか見つからない。



b 譲渡会への参加

奈良市で開催されていた、猫の譲渡会に参加した。譲渡会とは主に動物愛護団体が、人間の都合で手放されてしまった犬や猫などの動物たちを次の家庭へと譲り渡すために行う取り組みのことである。譲渡会では猫のおもちゃや、手作りのアクセサリが販売されていた。売り上げは、保護猫の餌代、医療費等に使用される。猫は約13匹参加していて、全て大人の猫だった。この時期に子猫は少ない。我々が参加した2023年4月16日の譲渡会に来ていた人数とその割合は、家族で来ていた人が50%で38人。夫婦もしくはカップルが40%で、1人が10%。中学

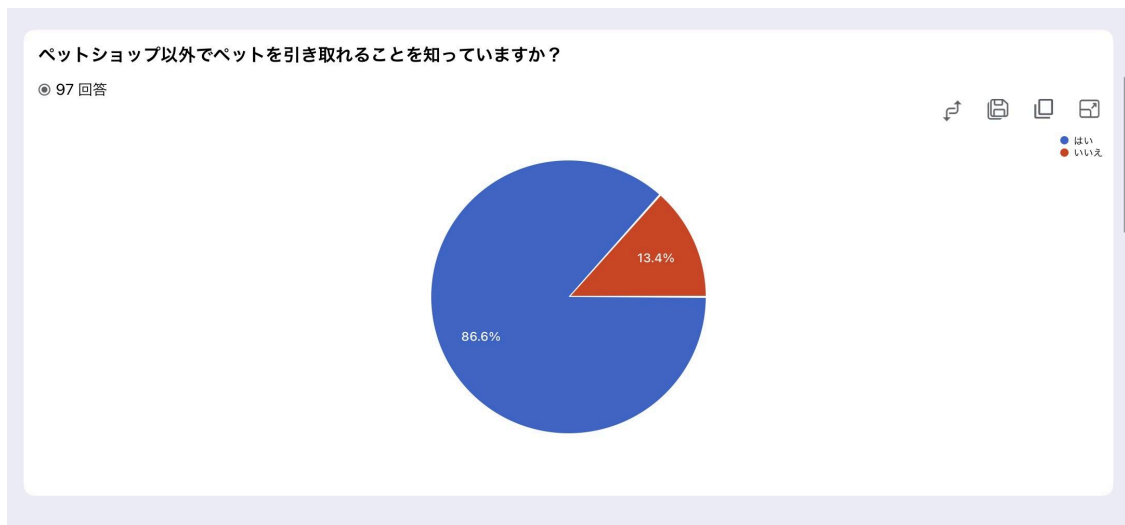
生、高校生を含む家族は来ていなかった。

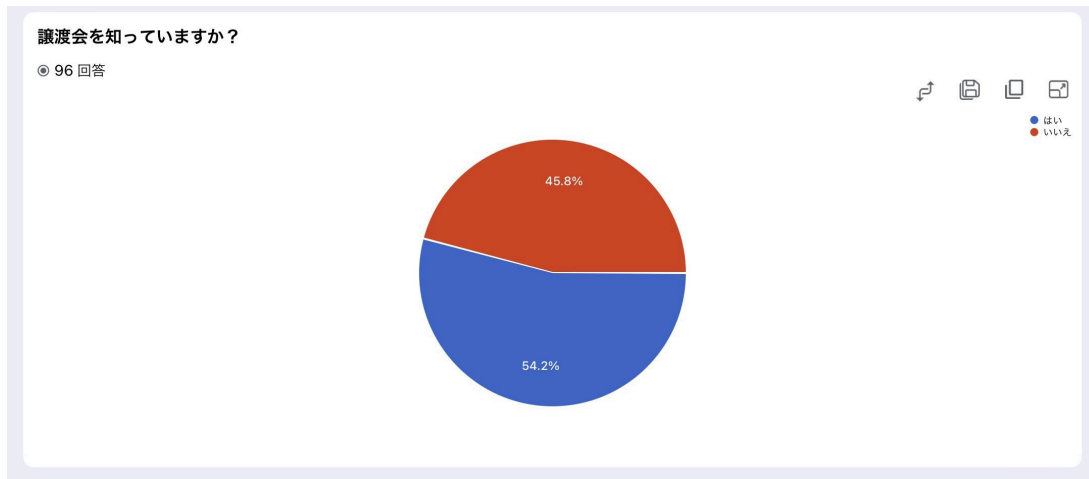
c 校内アンケートの実施

校内アンケートを実施した。アンケートでは、生徒がどれだけ殺処分や譲渡会について知っているのかを調べた。また、ペットショップ以外にペットを飼う手段がある事や、年間殺処分されている数を知ってもらうための内容も記載した。

校内アンケートの結果

譲渡会を知っている人は多かったが、参加した人の数は非常に少なかった。





譲渡会を知らない人は45.8%、知っている人は54.2%であった。ペットショップ以外でペットを引き取れることを知っている人が、86.8%で、知らない人が13.4%いた。殺処分で約1万4千匹の動物が殺されていることを知らない人が約73%いた。

d ボランティアで聞いた話

奈良市が出している令和3年データでは引き取られたのが138匹、譲渡されたのが136匹、殺処分された数は令和元年から3年連続で0匹となっている。

奈良市の殺処分数がゼロなので一般市民はいいことに思うかも知れないが、「本当は保健所が殺さずに世話をしているだけで、実際に保護された猫の数が減っているわけではない。奈良県では殺処分数がないから何とかしてくれるだろうと保健所に連れていく人が多くなり、保健所の負担が大きくなっているだけ」と「なら地域ねこの会」の主催者から聞いた言葉が現状である。殺処分される理由は収容中および譲渡後にほかの動物に危害を及ぼす恐れが高いと判断された場合、病気や著しい障害などがある場合、適切な譲渡先が見つからない場合、大型であるなどの理由により、適切な飼育管理ができない場合だそうである。

また以下のような内容も聞いた。「野良猫には餌をあげてはいけない。餌をもらっている猫は、栄養状態が良くなり子猫をたくさん産むようになります。メスの子猫は生後4~12ヶ月で繁殖できるようになります。猫は1回の出産で4~8頭の子猫を産み、1年に2~4回の子猫の出産が可能です。1頭の猫が1年間で20頭以上に殖えることが可能です。野良猫に餌を与えることで、望まれない命が増えたり、夜中の鳴き声や糞尿の処理などの住民トラブルが起こる。」

・考察

学生が譲渡会を知っているのにも関わらず、行ったことがない人が多い理由として、行く時間が無い、いつ行われているか分からないという意見があった。

結果を反映し、校内で、譲渡会開催日、場所を広めることで、参加する人が増えると考えた。また、ボランティア活動の現状を伝えることで、今の動物の状況を伝えられると考えた。

4. 結論

保育園や幼稚園などで、子供たちの命への理解を深める活動をしたい。マイクロチップの義務化、避妊、去勢手術を行うための話もしたい。

5. 参考文献・出典

・西岡優衣、2019年、なぜ日本のペット殺処分はゼロにならないのか、上智大学経済学部経営学科卒業論文、<https://pweb.cc.sophia.ac.jp/amikura/thesis/2018/nishioka.pdf>

・奈良市報道プレスリリース、犬猫殺処分ゼロを4年連続で達成しました【市長会見】(令和5年5月30日発表) <https://www.city.nara.lg.jp/site/press-release/177356.html>